

## 令和5年度第1回鎌倉市まち美化推進協議会 会議概要

日 時：令和5年（2023年）11月16日（木）午後2時30分～午後4時30分

会 場：鎌倉市役所第3分庁舎講堂

出席者：藤倉会長、波多辺会長職務代理、井上委員、渡邊委員、高田委員、山村委員、草野委員、竹内委員

欠席者：内海委員、依田委員

事務局：能條環境部長、千田環境部次長、牧野環境保全課長、落合課長補佐、勝島職員、那須職員

傍聴者：なし

牧野環境保全課長の進行により会議を進めた。

### 1 市長あいさつ

松尾市長から挨拶を行った。（挨拶後、松尾市長は所用のため退席）

続いて、委員紹介と事務局紹介を行った。

過半数の委員が出席しているため、会議が成立していることを確認した。

### 2 会長及び会長職務代理の選任について

委員の互選により藤倉委員が会長に選任された。

また、藤倉会長の指名により波多辺委員が会長職務代理に選任された。

会長の選任に伴い、藤倉会長に進行を交代し、会議が進められた。

傍聴者がいないことを確認、事務局から資料の確認を行った。

### 3 協議事項

#### 第5次鎌倉市まち美化行動計画に係る令和4年度事業の実施状況について

事務局から協議事項についての説明を行った。主な質疑は次のとおり。

会 長：「アダプト・プログラム」について、令和4年度は新たな締結が1団体、解除が1団体とあるが、解除の理由が分かれば教えてもらいたい。

事務局：高齢化に伴い、活動を続けることが難しくなると団体から申し出があった。

会 長：路上喫煙の調査データは興味深い。資料1の「(3) 路上喫煙防止の推進 (エ) 全市域の道路や公園、広場、屋外の公共の場所を禁煙区域に指定します。」について、「路上喫煙禁止区域」と(エ)の関係を教えていただきたい。学生が調査をしたとき、公園にも多数喫煙者がいた。路上喫煙禁止区域として公園はどうか。

事務局：鎌倉市路上喫煙の防止に関する条例で、路上喫煙禁止区域の公共の場所は路上喫煙禁止と

しており、公園も禁止区域に含む位置付けにしている。鎌倉市全域の公共の場所を禁止区域とすることが最終目標だが、禁止とただけでは路上喫煙は減らないと考えている。喫煙者と非喫煙者の共存のため、鎌倉市喫煙目的施設設置等補助金制度を設けた。喫煙できる場所とできない場所の住み分けを行ってから、鎌倉市全域の公共の場所を禁止区域とすることを最終目標としている。

会 長：資料2の「8 関係団体との連携」について、自治会・町内会との連携とある。他の市では自治会・町内会の加入率が非常に低くなっているのので、ごみ関係などの情報伝達や協力が悪くなっていると聞く。鎌倉市の状況はいかがか。

事務局：鎌倉市では地域のつながり課が自治会・町内会のとりにまとめを担当している。高齢化が進み、活動が一部困難になっているという声があるため、全ての依頼事を自治会・町内会に依頼するのではなく、事業課で行えることは事業課で行ってほしいという話が出ている。

会 長：県内のある市では、自治会加入率が約50%と悪いが、クリーンステーションは自治会が管理しなければならないため、一部の人に管理の負担がかかっていると聞いた。

会 長：公園も路上喫煙率調査を行ったことがあるか。

委 員：住友常盤住宅の公園の中で「望まない受動喫煙を防止するため禁煙にご協力ください」と書かれた「やめよう路上喫煙」のプレートを見たことがある。

事務局：公園では路上喫煙率調査を行ったことはない。鎌倉市路上喫煙の防止に関する条例に、「市民等は路上喫煙をしないよう努めなければならない。」とあるので、禁止区域外でも職員が指導を行っている。

事務局：鎌倉駅西口駅前時計台広場の整備により喫煙所を撤去したが、広場で喫煙者を見かけることがあるので指導を行っている。

委 員：路上喫煙の防止に関する条例が施行されてかなり時間が経つが、周知徹底されていない。具体的な施策が必要である。条例が施行された際、重点的に広報活動が必要ではなかったのか。自転車で移動しながら吸殻を拾うが、ポイ捨てが根付いていると思う。周知徹底されていないため、いまだに問題が解決されていない。例えば、交通機関とタイアップしてポスターを掲示するなど、市民や民間事業者と一緒に取り組んではどうか。雨が降ると側溝の近くにポイ捨てされた吸殻はプラスチック製で軽いため、雨水と一緒に川に流れてしまう。また、回りの紙が破れて綿上のもので道路に張り付いたり、5mm間隔の3つの小さなパーツに分かれて転がったりもしている。ポイ捨てはいけないということの一つの要因である。切り口を変えて、鎌倉市から情報発信してはいかがか。たばこの吸殻は全国的にも問題であり、製造者の問題でもあるので、製造者にもアタックできないか。

会 長：鎌倉市は公共交通機関とタイアップをおこなったことがあるか。

事務局：交通機関とのタイアップについては、JR鎌倉駅職員の提案でJR鎌倉駅では「ごみのポイ捨て、喫煙、食べ歩きなど観光客のマナー悪化」を改善し、啓発するための構内放送を15分間隔で45秒間アナウンスしている。鎌倉市で活躍されている方が月替わりでマナー啓発の放送を実施していて、8月は松尾市長だった。ポスターも駅構内に掲示している。

委 員：路上喫煙防止啓発の路面シートが劣化している。劣化したものについては剥がしてもらいたい。

事務局：大船駅周辺の劣化した路面シートは全て撤去完了している。鎌倉駅周辺も随時職員が撤去している。設置場所は全て調査しており、劣化状況も確認している。順次電柱への掲示に切り替えている。

事務局：禁止区域外も全て撤去していく。今後は禁止区域内の電柱がない場所や苦情が多い場所など必要な場所には路面シートを残すが、転倒事故があったことから禁止区域内を優先して電柱表示に切り替え、路面シートは基本的には撤去していく方向で考えている。

会 長：かまくらプラごみゼロウィークのときに、たばこのフィルターはプラスチックだと啓発はできなかったか。

事務局：昨年も本協議会からたばこのフィルターについて御意見をいただいていたのでJTに伝えている。外国人は日本では路上喫煙できないことを知らない可能性がある。この問題は鎌倉だけではなく全国の問題だと思う。飛行機内や空港の喫煙所で日本では路上喫煙しないように案内ができないか依頼したところ、検討するとの返事をいただいている。

委 員：携帯灰皿を持参している喫煙者もいる。路上喫煙が散乱につながっているのか検証したことがあるか。路上喫煙者数が減っているのであれば、吸殻の数も減っているのではないか。誰がという点もある。外国人か、市民か、観光客かによってコミュニケーションが変わってくる。属性の分析を行ったことはあるか。

事務局：路上喫煙のパトロールは委託業者が行っている。吸殻を拾いながら注意や指導を行っている。2年程前から本数を計測しているが、本数に変化はない。人目のつかない時間にポイ捨てをしているのではないかと推測している。属性の調査は行っていないので検討する。

委 員：車中からポイ捨てをしているのではないか。

事務局：道路の脇に吸殻が落ちているので、車中からポイ捨てしているのではないかという話を以前にもいただいた。その場合、市内に入ってくる車に対してどのように周知したらいいのか難しい。

委 員：鎌倉地区と大船地区を比較したとき、大船地区が大幅に減少した理由として屋内型喫煙所を設置したことが大きいのか。

事務局：屋内型喫煙所を設置したことが大きいと考えている。喫煙できる場を用意することに効果があると思う。

委 員：路上喫煙禁止がわからない外国人に対して場所の周知が必要である。

事務局：外国は建物の外は喫煙可能という感覚だと聞いた。入国の前に飛行機内などで日本のマナーをしっかりと周知したいと環境省に依頼した。

委 員：鎌倉駅の窓口などで外国語のパンフレットを配布し、周知徹底させることが必要である。

委 員：車からたばこをポイ捨てするところを何回か見かけた。誰も見ていないからいいという感覚だと思う。たばこには水に入るとはいけぬ農薬ほどの悪い成分が含まれていると聞いた。シンガポールは外国人に対してマナーを周知徹底している。徹底している理由として罰金制度があるが、日本では難しいと思う。ポイ捨ては見られているという感覚を意識付けしたい。

委 員：「鎌倉市みんなでごみの散乱のない美しいまちをつくる条例」が制定された直後は、歩きたばこをしながら駅に向かう市民をよく見かけた。今は見ることはほとんどないので、周知

されてきていると思う。海外は喫煙可能な場所が明確に区分されており、外では喫煙できるという意識が強い国が多いと思う。その外国人に対してどのようなアプローチがいいのか。外国人はインターネットでいろいろ調べて観光に来るので、インターネットを使って鎌倉市は路上喫煙禁止だと周知させるのが効果的だと考える。検討していただきたい。喫煙所設置も効果的だが、設置する場所と継続して綺麗に管理していくことが非常に難しく費用もかかる。

委員：鎌倉市に喫煙場所があるかどうか、観光協会への問い合わせが非常に多い。鎌倉市は路上喫煙禁止だと知った観光客が観光協会へ問い合わせをしている事例だ。喫煙場所の提供も一つの方法である。鎌倉駅付近で喫煙可能な店舗を示したJTの地図が大変好評だったので、再度依頼することも方法だと思う。補助金制度は設置条件が緩和したことで問い合わせは増えたか。

事務局：問い合わせはないが、要綱改正がきっかけでJTから民間事業者を御紹介いただいた。

委員：鎌倉市もシェアサイクルが増えている。ステーションなどに表示するのも一つの方法だと思う。

委員：喫煙者は重症化するという新型コロナウイルスの影響もあって、減少していると思う。路上喫煙実態調査を見ても喫煙者は減少している。

会長：高齢者は新型コロナウイルスの影響で禁煙し、若年層は金銭のこともあり喫煙しないのではないか。

#### 4 報告事項

##### ア 「鎌倉市喫煙目的施設設置等補助金」を活用した公衆喫煙所の設置について

##### イ 海洋プラスチックごみ削減に向けた取組について

事務局から報告事項アとイについての説明を行った。主な質疑は次のとおり。

委員：喫煙所は定員や時間制限を設定しているのか。

事務局：定員は10名程度。アイザ鎌倉の管理運営上の問題で利用時間を設定しているが、運営状況次第では時間の延長も検討したいとのことだった。補助金交付要綱では一週当たり5日以上かつ40時間以上稼働することを設けている。

会長：さかなくんのイベントは盛況だったと聞いたが、対面のみか。

事務局：全国で講演を行うためネタバレ防止の意味もあり、事務所の方針で録画も撮影も禁止だったため、対面のみだった。

会長：啓発の機会なのでオンラインも活用したほうがたくさんの人に広まるのでうかがった。

委員：たばこは吸殻だけではない。箱の包装フィルムが道路に落ち、吸殻が落ち、吸い終わったら箱が落ちる。たばこは散乱ごみになりやすい。原始的なやり方だが、綺麗にするしかない。綺麗にしようとする意識が高まればいいと思う。

委員：まち美化にとって自動販売機の回収容器は重要である。渡邊委員に回収容器がいっぱいになったら知らせてくれるシステムがないかどうか聞いた。

委員：現在各社で回収容器の回収を行っているが、自社の回収容器だけ回収していると漏れがあったりトラックの数もその分多くなったり、業務効率も落ちる。小田急電鉄から打診があり、一括で回収する実証実験を東京都と小田急電鉄で実施した。飲料メーカーの補充要員が小田急電鉄の委託業者に通報して一括で回収してくれるので、我々にも非常にメリットがある。単に回収容器がいっぱいになって溢れるケースもあれば、入り口をふさがれて溢れるケースも多い。特にプラスチックのカップである。渋谷で見ていると、回収した5分後には入り口を一つふさぎ、2～3分するとまたふさぎ、それを抜かないと捨てられない状況になり、回収容器の上に缶やペットボトルが並び出す。上に置いた方も回収容器に置いているから問題ないだろうと思い、それが散乱につながる。消費者啓発も重要であり、我々がしっかり回収することも重要である。メーカー側が環境に負荷が少ない容器を開発する取組も全て必要になってくる。最近オレンジ色の回収容器が出始めており、投入口を斜めの形状にして、カップなど不安定なものが入らない形状になっているので投入口をふさぎにくい。いろいろなことを組み合わせて散乱につながらないような取組を進められればと思う。

会長：1台でゴミを全て回収する取組は非常に良い。

委員：廃棄物の処理及び清掃に関する法律の問題で、排出責任や許認可もある。今回は東京都の実証実験として申請して、期間を限定して実施したが、手間が多くマニフェストも交付した。しかしこのような仕組みづくりが進んでいけば良いと思う。

会長：公募市民のお二人から御意見をいただきたい。

委員：落書きが増加傾向にあり、非常に残念だ。増加の原因は掴んでいるか。

事務局：大船警察にパトロールの強化を依頼し、夜間パトロールを増やしてもらったことがある。

委員：鎌倉の場合、落書きは手書きと小さな紙にタギング（自分のサインを書いて貼る）2つのパターンがある。毎月件数を数えてデータ化し、県と市と共有している。落書き犯は少数であり、依存性があると思う。

委員：常習犯ばかりか。

委員：タギングを見ればわかるが、まだ、顔は見えない。鎌倉市と協働事業として取り組んでおり、やることはやった。後は犯人逮捕あるのみ。牧野課長と一緒に鎌倉警察と大船警察の担当課に伺い、犯人逮捕につなげてほしいとデータを届けている。警察からは他に組みむべき問題があるため、落書き犯に特化することはできないと言われた。警察は軽微な犯罪としか見ていない。2000年から落書きに取り組み、20年以上経つ。2000年当時に落書きをしていた犯人が20歳代としたら、40歳代になる。累計20年以上、地域に与えた負の被害を考えれば大変な犯罪である。警察は真剣に取り組んでほしい。街中にたくさん防犯カメラがあり観察できる仕組みがあれば、犯人逮捕につながると思う。

委員：同一犯の可能性もある。警察が取り組んでくれれば一気に犯罪がなくなるかもしれない。

委員：行動心理学だと思う。Zはニュースにもなった。自分が来たという証を残すために落書きする人もいると思う。1つ目はゴミのポイ捨てや路上喫煙のアナウンスをバスの中で行うと効果的だと思う。2つ目は若い人がボランティアを単位として一つ持ち、ある程度ボランティアにかかわらないと卒業できないという仕組みがあれば良いと思う。3つ目は鎌倉

市にもペットボトルリサイクルでポイントが貯まる仕組みがあれば良いと思う。ボランティア精神があるかどうか様々だと思うので、還元する何かがあれば良いのではないかな。

会長：SNSも監視の方向にうまく使えたら良い。

### 3 その他

事務局から次回の会議日程等についての報告を行った。

以上